

【熊本S. J. C. D. 例会 抄録】

演 題 咬合器付着と歯列構築

演者名 渡辺裕士

日 付 2006年10月24日

keywords

1. トップダウン・トリートメント
2. 咬合再構成
3. 咬合器付着
4. 正中矢状面
5. 咬合平面

抄 録

近年の歯科補綴治療では、骨・歯肉・歯列・歯牙単位といった、より包括的かつ審美・機能的な治療が求められるようになりました。

このように高度で複雑な補綴治療を進めるうえでは、“トップダウン・トリートメント”という言葉で代表されるように、歯科医師と歯科技工士との連携が大変重要です。しかし、口腔内治療と技工操作とが完全に分業状態にある現在では、両者で治療概念を共有し合うことが大変困難となってきたことも否めない事実かと考えます。

特に、咬合再構成を必要とするような大きな症例では、“生体”と“咬合器”という極めて基本的な関係に対する認識の違いにより、口腔内試適の度に修正を余儀なくされることが少なくありません。

そこで今回は、正中矢状面・咬合平面を基準とした咬合器付着を前提として考案された、ABE咬合器による臨床例を提示させて頂き、先生方とのディスカッションを通して『このような問題解決への糸口となれば』と考えます。宜しくお願い致します。